

## がん患者における医療者への相談行為の現状に関する検討

Current States of Consultation with a Medical Staff  
in Cancer Patients

竹下 若那 (Wakana Takeshita) 指導：鈴木 伸一

## 問題と目的

がん患者は、がんに罹患したことにより、さまざまな心配事を抱えると言われている (Hirai et al., 2008)。これらは負担が大きくなると、臨床的にも重大な心理的問題をもたらす場合もあると言われている (Stark & House, 2000)。さらに、がん罹患後に、日常的に相談できる相手が必要であると述べる患者が存在する (松下他, 2010)。しかし、心理的問題を相談することに対して、なんらかの抵抗を感じている患者も存在することも明らかにされている (Endo et al., 2008)。より患者のニーズに合った適切な支援が行われるためには、医療者から積極的に支援を行うとともに、患者からも相談できるような体制を整えていく必要がある。しかし、がん患者の相談行為に関して、心配事の内容や、各心配事を誰に相談したいかについては明らかにされていない。また、近年では、がん医療現場に携わる心理師が増加しており、医療者と患者をつなぐ役割も期待されている (吉津他, 2012)。現在、がん患者が心理師に対してどのような心配事を相談したいと思うか、また、相談したい／したくない(しない)理由については明らかになっていない。そこで本研究では、がん患者からの相談行為に焦点を置き、がん患者における相談行為の現状と、心理師への相談行為の現状を明らかにすることを目的とする。

## 方法

## 1) 調査対象者

調査対象者は、20～85歳の成人がん患者158名(男性83名、女性75名、平均年齢 $66.07 \pm 11.39$ 歳)であった。

## 2) 調査方法

調査施設において研究協力者となっている主治医から紹介された患者と面会し、同意の得られたがん患者に対し、自己記入式の質問紙調査を実施した。

## 3) 調査材料

(1) フェイスデータ、(2) 抑うつ・不安: Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS: 八田他, 1998)、(3) がん患者の心配評価尺度: Brief Cancer-related Worry Inventory (BCWI: Hirai et al., 2008)、(4) 相談相手 (松下他, 2010)、(5) 心理師に対して相談したい

／したくない(しない)理由

## 結果

属性における不安・抑うつとの差異を検討した結果、男性と比較して女性の方が有意に不安の得点が高かった ( $t(152) = -2.21, p < .05$ )。その他の属性に不安・抑うつの有意な差はみられなかった。また、がん患者がもつ心配事で割合を多く占めていた心配事は、「がんという病気自体」(74%)、次いで「今の病気が悪化するかもしれないこと」(70%)であった。相談相手については、「治療の効果」において主治医に相談したい者が70%であった。心理師に対して相談したい答えた者は最も多かったもので「自らの生と死」で、この心配事がある76名のうち7名(9%)であった。さらに、どのような心配事をもつ者が不安・抑うつが高いのかを検討した結果、「自らの生と死」( $t(152) = 4.92, p < .05$ )、「病気にうまく対処できるかどうかということ」( $t(152) = 4.00, p < .05$ )、「自分のこころの状態」( $t(152) = 4.99, p < .05$ )などの心配事がある患者の方が、不安・抑うつの得点が有意に高かった。また、KJ法より、心理師に相談したい理由については、「不安なとき」、「今後病状が変化したとき」などのカテゴリに分類され、相談したくない(しない)理由については、「心理師に相談することの効果期待できないから」、「ふみぎれない」などの大カテゴリに分類された。

## 考察

がん患者の相談行為の現状として、がんという病気自体に関して多くの患者が心配事を抱えていることが明らかになった。本研究から、主治医に相談したいと思う、または相談している者が多く、また、心理師に対して相談したいと思う、または現在している者は少ない現状であった。このことから、主治医との円滑なコミュニケーションに重点をおき、医療現場で支援していくことも必要であると考えられる。しかしながら、心理師に対して実際に相談している人は少ないながらも、興味をもつ患者も存在することが明らかになった。そのような患者に対し、相談方法や一般的な相談内容について、積極的に情報提供を行っていくことが重要であると考えられる。